行革甲子園

産官学による広域防災連携が取組むランニングストック方式による防災備蓄の推進（北海道余市町）

取組概要

·〇令和4年度より取組開始した、北後志地域における産官学による「北後志広域防災連携」の取組事業のひとつであり、共通の課題を広域的に解決することを目的に実施

·〇趣旨に賛同していただいたサツドラホールディングス株式会社（以下「サツドラ」という。）と約2年間に及ぶ協議の上に実現したランニングストック方式による防災備蓄の整備事業

·〇各自治体の共同購入、寄託及び消費寄託による新たな商流及び物流事業者を含めた物流による広域的に取組む官民連携によるランニングストック方式による防災備蓄の推進

人口　17，216人（余市町：R6.1.1現在）

5町村人口：25,925人

積丹町：1,764人、古平町：2,656人
仁木町：3,037人、赤井川村：1,252人

担当　余市町総務部総務課防災係

北後志広域防災連携のイメージ図
積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村の５町村が連携し自治体間の連携、民間事業者と連携して行う官民連携、学識者を交えて行う産官学連携の取組を行っている。

取組の効果

〇従来の備蓄食の整備に比して、約1／3の経費で整備が可能
〇フードロス問題解消：毎年大量に発生していた備蓄食の廃棄が必要がなくなった。
〇保管場所、スペース問題解消：保管について一切考慮する必要がなく問題が解消した。
〇備蓄管理業務の効率化：保管場所不足から分散保管を行っていたため、棚卸、台帳管理、賞味期限管理等の業務所要が大であったが一切必要がなくなった。
〇防災担当者の視野拡大：最少自治体で約50倍、最多自治体で約1．6倍の規模感の災害対策を検討することにより実現
〇その他：備蓄の特性上、長期の消費期限を備蓄食選定の必須条件としていたが、この方式で整備を行うと、消費期限1年前後の備蓄食を選定することが可能となり、避難者のQOL向上につながった。

創意・工夫した点

他町村と連携する上で、異なる考えのもとに各々の防災対策を行ってきた特性を受け、次の事項を重視
〇認識、考え方を共有及び統一
担当者会議、事務局による巡回説明、課長級及び首長会議の実施
〇不公平感を排除
想定避難者数に基づく人員比率に応じた必要経費の計上
〇祖語の防止
発注はロットを考慮、箱単位で実施

他団体へのアドバイス

人口減少が加速化する中、今や災害対応は地域で取り組むフェーズへと移行したのではと考えています。そのような中、周辺町村と連携し協力することで解決できること、さらに民間事業者の協力を得ればさらに大きな課題解決につながると思います。

またランニングストック方式による防災備蓄の推進は、我々の課題を一気に解決するスキームとなり、調整には、民間側の立場を考慮し、双方にとってメリットある取組とすることが大事であると思います。

ランニングストック方式のイメージ図
購入した備蓄食を民間事業者に預入（寄託）を行い、民間事業者は、自治体の必要数を常時確保しつつ販売用在庫として運用する。（消費寄託）※写真は購入した備蓄食（レトルト食）